



concept

旅立ち、出会い、別れ、挑戦...
 様々な想いを運ぶこの場所で、
 どのようなふるまいが似合うのだろうか。
 いち枚の屋根を分解してみる。
 分解した屋根にふるまいを与えてみる。
 ある屋根は低く、ある屋根は高く、
 ある屋根は小さく、ある屋根は大きく...
 それぞれにふるまう屋根を繋ぎ合わせると、
 ちょっとワクワクするような、
 ちょっとドキドキするような、
 ちょっとおもしろい屋根ができた！
 まるで、たくさんのピースから、
 答えを繋ぎ合わせる Puzzle(パズル)のように。

diagram



step1

計画地に1枚の大きな屋根をかけます。屋根を大小様々な大きさに分解します。

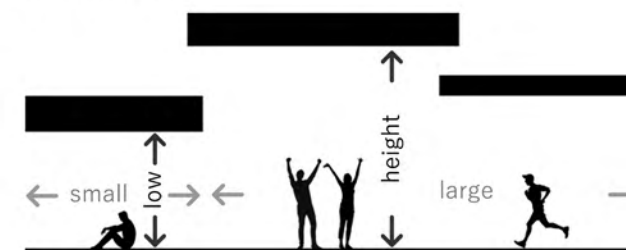
step2

天井の高さや仕上、色など、分解したそれぞれの屋根にふるまいを与えます。

step3

それぞれにふるまう屋根をつなぎあわせ、それぞれに場所性を有した新たな1枚の屋根を再構築します。

behavior

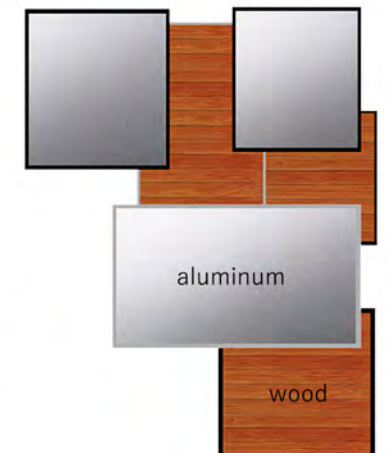


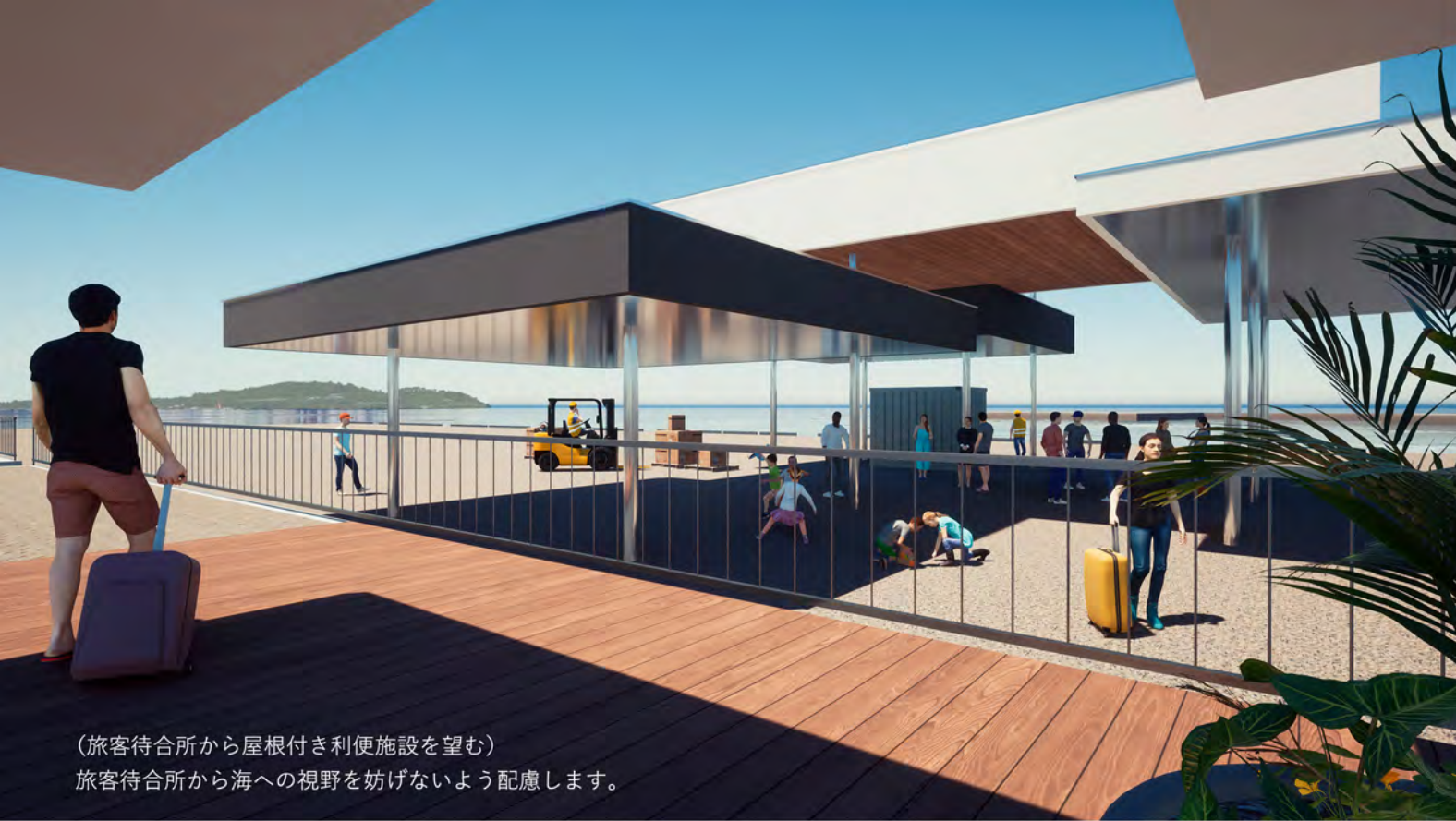
(ふくよかな空間)

分解した屋根に広さや高さをそれぞれ設定することで、訪れた人たちの性質(個人・団体・大人・子供など)に様々な所作(長時間・短時間・立つ・座る・歩くなど)を全体として包含しながら、個別及び複数選択的に自由で緩やかな空間選択が行える”ふくよかな空間”を目指します。

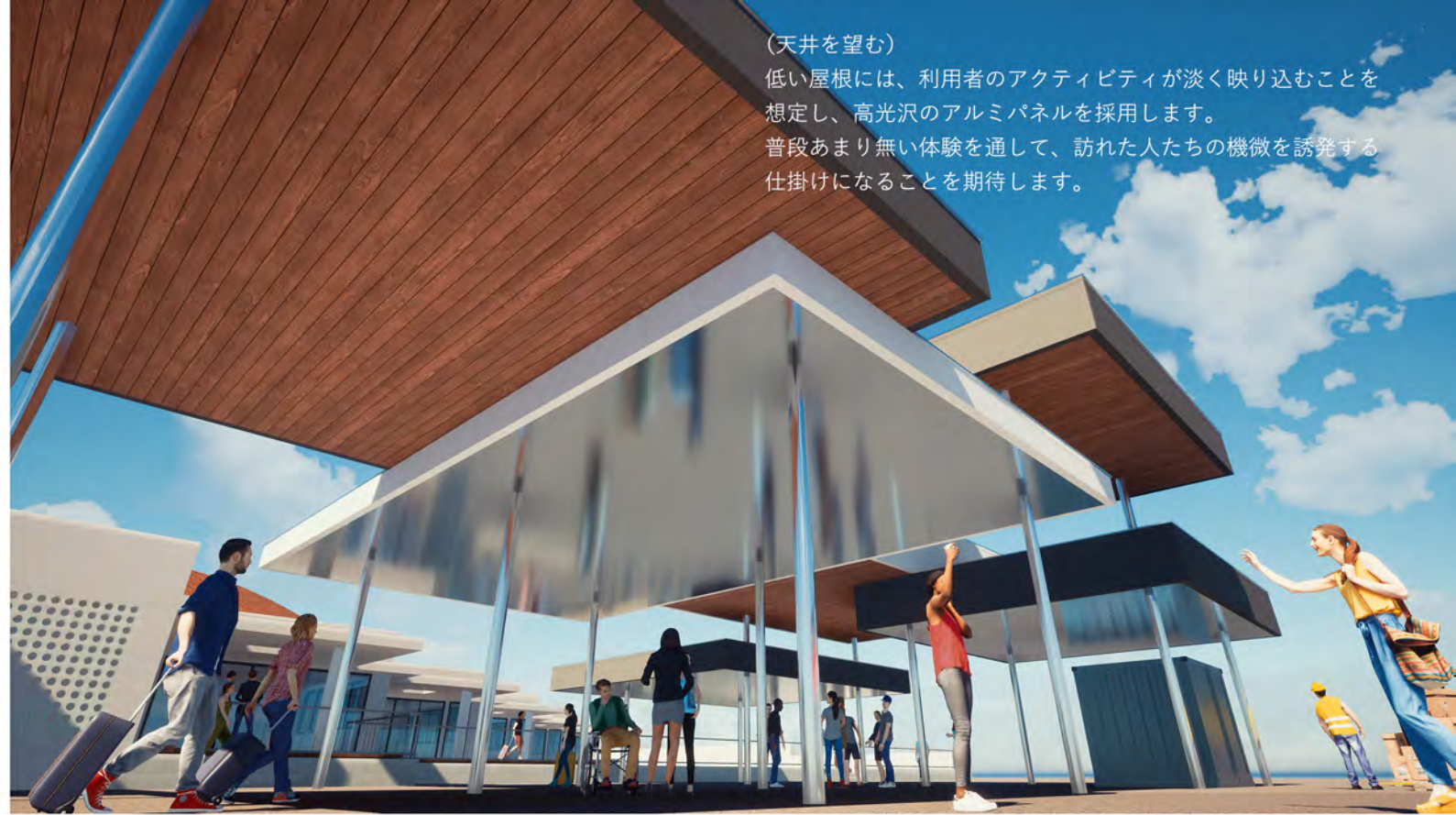
(非日常性と安らぎの空間)

屋根の低い天井には光沢度の高いアルミパネルを採用し、訪れた人たちのアクティビティが”淡く柔らかく映り込む”非日常性を演出します。
 また、屋根の高い天井には、再生木材+アルミ押し出し型材によるアルミスパンデルを採用することで、落ち着きと安らぎのある空間を演出します。





(旅客待合所から屋根付き便利施設を望む)
旅客待合所から海への視野を妨げないよう配慮します。



(天井を望む)
低い屋根には、利用者のアクティビティが淡く映り込むことを想定し、高光沢のアルミパネルを採用します。
普段あまり無い体験を通して、訪れた人たちの機微を誘発する仕掛けになることを期待します。

(構造について)

構造形式の選定については、計画地の軟弱な地盤状況を考慮し、自重の少ない鉄骨造とします。また、基礎への負担を減らすことで、躯体量を削減による地業（杭工事を含む）・鉄筋・型枠・コンクリート・解体・復旧等を削減し、コストダウンを図ります。

(耐久性及び、メンテナンスについて)

材料の選定については塩害や風雨に対し、耐久性の高い材料を選定します。構造体（鉄骨）は、溶融亜鉛メッキ仕上の上フッ素樹脂塗装を施します。

屋根材は、母屋等を使用しない折板屋根とすることで、部品点数を減らし、錆の抑制を図ります。また、柱と基礎部を剛接合、柱と梁をピン接合とし、旗竿状とすることで、錆発生時の弱点となるボルト点数を減らし、メンテナンスの軽減を図ります。

(どこからでもアプローチ可能なオープンな屋根)

柱と屋根のシンプルな構成であることから、待合所・通路からの動線だけでなく、デッキテラスや広場からの動線も考慮した計画となっています。

フォークリフトと利用者の動線の重なりを考慮し、必要に応じて緩やかに領域分けする工夫があっても良いかもしれませんが（例：床にサインを施し領域分けをする等）。

(概要)

構造形式 : 鉄骨造
面積 : 459.43 m² (屋根の投影面積)
仕上 : 下図(断面イメージ)を参照のこと



(屋根の下に佇む)
空間の中央に居ても屋根の隙間から空を眺めることができます。
光が差し込むことで、空間全体を優しく照らします。

